



『8月のつどい』は西区で開催しました



8月の「つどい」は8月20日(水)西区民センターで、24名の参加をいただき開催しました。

「ちょこっと学習会」は、札幌市社会福祉協議会自立支援課の市川様より、「日常生活自立支援事業」について説明いただきました。この事業は、高齢や障がいのために、日常生活の判断に不安がある方が、地域で安心して暮らせるよう、社会福祉協議会がご本人との契約に基づき、福祉サービスの利用援助、金銭管理、預かりなどを中心にお手伝いします。担当は、専門員(訪問相談、契約書作成)と生活支援員(定期訪問)で、利用開始まで少し時間がかかります。利用者の約40%が認知症の方です。

いつもの語り合いでの皆さんの発言概要は、以下のとおりです。

実母の状況、同居の娘

母は買物、調理など日常生活はまだできますが、最近認知症ではと思われる状態が多くなっています。異常なお金への執着、頻繁な物忘れ、被害妄想、幻覚などです。些細なことで激昂し物が飛んできます。馬鹿野郎などと暴言も激しいです。受診させたいので、一緒に行こうとか、健康診断とか、いろいろな方法で説得を試みっていますが、財産奪われる、認知症にしたてられるなどと言って受診を激しく拒否し、連れていきません。認知症、介護や申請などの言葉にも激しく拒否反応を示します。

包括にも相談しましたが、今の状況では訪問は逆効果、嫌な印象持たれることも、まずお母様の気持ちを落ち着かせて下さいと対応してもらえませんでした。母が通院していた総合病院呼吸器内科の同行もできません。相談しましたが、認知症の診断はできないが、他の対応病院への紹介状は書きまうと言われました。親戚も理解してくれず、逆に散々怒られる始末です。どうやって病院に連れて行けばよいのでしょうか、八方塞がりです。母を救うには、また家族が共倒れしない方法があるのでしょうか？

会員より

介護経験者は皆さん少なからず同じ経験があります。認知症を理解する9大法則とか、家族がたどる4つのステップなどがあります。これを学び、介護で一番大事なこと、ゆっくり・優しく・穏やかに、本人を否定しないなど、少しずつ学ぶことは良いことだと思います。

あなたが話せる場を見つける、受け入れてくれる支持者を作る、肩の力を抜いていけるようにするのも大事ではないでしょうか。包括の担当者には、家族の会に相談したことを伝えて、今後も良い関係を継続して欲しいです。

会員より

怒りは病気のせいと受け止め、今は無理に解ろうとしなくていいと思います。自分を追い込まないで、暫く時間をおくのもいいですよ。本人は不安で自分を守ることに必死で、それが家族への攻撃の形になっています。今は様子を見て、病院に行ける機会を待つのもいいです。病院見つけて、かかりつけ医から紹介してもらえば行けるかも知れないです。

包括職員より

今、受診は難しいかも知れません。所謂第三者の包括や福祉課の方が訪問し、お母さんと会って家族とも相談する方法もいいですが、その時が来るまでタイミングを待つ、ちょっと手放して様子を見る時期かも知れません。

お姑さんのために 近所の娘

最近認知症っぽいので、勉強のために参加しました。つどいに参加されている皆さんは気持ちの優しい人ばかりで癒されます。認知症が進行しても、いろんな人に頼って、話を聞いてもらうことで、たくさん知恵をいただける感じがしました。

要介護2の妻を介護 夫

デイサービスを週3回利用中ですが、最近食が細く、体重が減少して心配です。デイサービスでは食べているようです。また、食後に外出したが、話の内容を理解できず聞き流していますが、いいのかなという感じです。

訪問看護ステーション職員から

ご提案ですが、レシピを変えてみる、お料理を手伝ってもらう、食器を外食風に変えてみる、お膳にしてみる、横隣りで一緒に食べてみるなどの方法があります。体重減少には、高カロリー栄養補助剤、いろいろ種類がありドラッグストアで手に入ります。

9月のつどいはお休みです

令和7年度認知症の人を正しく理解する研修会(9月18日)開催のため、9月の「つどい」はお休みします。

※10月の「つどい」は白石区にて10月20日(月)に開催予定です。

